

名古屋の住宅・土地

～平成 25 年住宅・土地統計調査結果～

(目次)

頁

I 住宅・世帯の概況

- 1 住宅数と世帯数 — 総住宅数の増減率は7調査年ぶりに2桁台に増加.....(1)
- 2 居住世帯の有無 — 空き家率は前回と同様の 13.2%.....(2)

II 住宅の状況

- 1 住宅の建て方 — 共同住宅の割合が上昇、うち 11 階以上は前回調査より3割強増加.....(3)
- 2 建物の構造 — 非木造住宅が全体の 7 割弱を占め、一戸建では非木造が 2 割弱.....(4)
- 3 建築の時期 — 昭和 55 年以前に建築された住宅は全体の約 1/4 に.....(5)
- 4 住宅の所有の関係 — 持ち家率は 45.5%と前回を 0.2 ポイント下回る.....(6)
- 5 持ち家の取得方法 — 新築住宅を購入が半数近くを占める.....(7)
- 6 専用住宅の借家の家賃・間代 — 1 か月当たりの平均家賃・間代は 53,683 円.....(7)
- 7 住宅の規模 — 1 住宅当たりの居住室、畳数、延べ面積とも前回より減少.....(8)
- 8 一戸建・長屋建住宅の敷地 — 1 住宅当たりの持ち家の敷地面積は借家の 2 倍強.....(9)
- 9 設備
 - (1) 耐震診断 — 平成 21 年以降に耐震診断が行われた住宅の割合は 10.2%.....(10)
 - (2) 耐震改修工事 — 持ち家で平成 21 年以降に耐震改修工事をしたのは全体の 2.3%のみ.....(10)
 - (3) オートロック式の共同住宅 — 普通世帯の約 1/4 がオートロック式の共同住宅に住む.....(11)
 - (4) エレベーター及びその防犯設備 — 非木造の共同住宅のエレベーターの 4 分の 3 に防犯設備あり.....(12)
 - (5) 高齢者等のための設備 — 設備ありは住宅全体の 48.5%.....(13)
 - (6) 高齢者等のための設備工事 — 平成 21 年以降、持ち家に居住する主世帯の 12.3%で設備工事.....(13)
 - (7) 省エネルギー設備 — 太陽光発電器ありは前回調査の 3 倍以上に.....(14)
 - (8) リフォーム工事 — 持ち家全体の 4 分の 1 強が平成 21 年以降リフォーム工事をしている.....(14)
 - (9) 増改築・改修工事等 — 持ち家全体の 4 分の 1 強が、平成 21 年以降に増改築・改修工事等をしている.....(15)
 - (10) 腐朽・破損の有無 — 昭和 55 年以前の住宅では腐朽・破損の割合が 2 桁台.....(15)

III 世帯の居住状況

- 1 家計を主に支える者の年齢 — 65 歳以上の約 3 分の 2 が持ち家の世帯主.....(16)
- 2 主世帯の年間収入 — 700 万未満では持ち家率は前回を上回り 700 万以上では下回る.....(16)
- 3 最寄りの生活関連施設までの距離 — 医療機関、公園まで 250m 未満が 5 割強.....(17)

IV 居住水準の状況

- 1 最低居住面積水準 — 最低居住面積水準以上の世帯は 85.8%.....(19)
- 2 誘導居住面積水準 — 誘導居住面積水準以上の世帯は 52.9%.....(19)

V 高齢者のいる世帯

- 1 世帯数 — 高齢単身世帯の割合は前回より 3.2 ポイント上昇.....(20)
- 2 住宅の所有の関係 — 持ち家に高齢者の割合は前回調査より減少.....(20)
- 3 設備 — 高齢者のいる世帯の過半数が手すりを設置.....(21)
- 4 子の居住地 — 片道 15 分以上 1 時間未満の場所に住んでいる割合が最も高い.....(21)

VI 住宅・土地所有の状況

- 1 住宅・土地所有の概況 — 現住居の敷地以外の土地所有率は 14.5%で前回と同じ.....(22)
- 2 家計を支える者の年齢 — 40 代を境に現住居、現住居の敷地の各所有率が高くなる.....(23)
- 3 世帯の年間収入 — 年収 1,500 万円以上の世帯では現住居以外の所有率が顕著.....(23)
- 4 現住居以外の住宅 — 親族居住用の割合が低下し、二次的住宅・別荘用が上昇.....(24)
- 5 現住居の敷地以外の宅地など — 約半数が相続・贈与で取得.....(24)

VII 区別の状況

- 1 住宅数と世帯数 — 住宅数増加率トップは中区、熱田区・南区除き軒並み 2 桁台の増加率.....(25)
- 2 居住世帯の有無 — 空き家数は千種区、空き家率は瑞穂区がトップ.....(26)
- 3 住宅の所有の関係、建て方、構造 — 持ち家・一戸建の割合が高い緑区、守山区、南区.....(27)
- 4 建築の時期 — 18 年～22 年建築の住宅の割合が最も高い中区.....(28)
- 5 1 住宅当たりの規模 — 緑区、守山区の順に大きく、最も小さいのは中区.....(29)
- 6 オートロック式の共同住宅に住む普通世帯数 — 中区では全体の過半数.....(29)

VIII 全国・21 大都市の状況

- 1 住宅数と世帯数、居住世帯の有無 — 空き家率トップは大阪市の 17.2%.....(30)
- 2 住宅の所有の関係、建て方 — 持ち家率トップは新潟市の 66.4%.....(31)
- 3 建物の構造、1 住宅当たりの規模 — 本市の非木造の割合は 21 大都市中 4 番目に高い.....(32)
- 4 高齢者等のための設備状況 — 設備ありの総数の割合では本市は全国平均よりやや低め.....(33)
- 5 オートロック式の共同住宅に住む普通世帯数 — 福岡市は普通世帯総数の約 4 割.....(34)
- 6 世帯の年間収入階級別持ち家割合 — 17 都市で年収 500 万円未満が過半数を超える.....(35)

調査の概要及び主な用語の解説.....(36)